

会務報告

I. 日本珪藻学会第34回大会

日本珪藻学会第34回大会が、平成25年5月18日(土)と19日(日)の両日、文教大学越谷キャンパスの12号館(埼玉県越谷市南萩島3337)で、出井雅彦氏を大会会長として開催された。大会参加者は49名、講演は口頭発表がミニシンポジウム4題を含め18題、ポスター発表が4題の計22題であった。ミニシンポジウムは、「珪藻の細胞を見る」をテーマに行われた。

第1日目の発表終了後、大学食堂前の広場で写真撮影が行われた。続いて平成25年度の総会が、大会会長を議長として開催され、報告と審議が行われた。総会后、大学3号館会議室で懇親会が開催された。懇親会では、イギリスのDavid Mann博士から提供されたオリジナルの絵や論文原図などの貴重な品々がオークションに掛けられた。懇親会には36名が参加し、予定時間を超え話がはずんだ。

2日目は、午前中に口頭発表が行われ、大会は盛会のうち無事終了した。大会の準備ならびに運営に協力してくれた壁谷君、一柳君そして学生諸氏に感謝を申し上げる。

II. 平成25年度運営委員会

平成25年度日本珪藻学会運営委員会が、平成25年5月18日(土)11時10分より文教大学越谷キャンパス12号館12203会議室において開催された。出席者は、真山茂樹(会長)、真山なぎさ、伯耆晶子(幹事)、出井雅彦(運営委員、大会会長)、大塚泰介(運営委員、編集委員長)、後藤敏一、辻彰洋(運営委員、編集委員)、長田敬五(運営委員)、須藤斎(編集委員)、豊田健介(HP委員)、阿部洋子、廣瀬孝太郎(監査)の12名。

【報告事項】

- 1) 会員状況
- 2) 会計状況
- 3) 編集委員会関係状況

Diatom 28巻(平成24年12月31日発行)の内容および、29巻編集状況(平成25年5月16日現在)についての報告に続き、同日開催の編集委員会で承認された投稿規定の改訂と29巻特集記事予定についての報告があった。
- 4) バックナンバー保管先と保管冊数状況
- 5) Diatom28巻の寄贈先

従来からの寄贈先9件および27巻からの新たな送付先3件についての報告がされた。
- 6) 大会および研究集会開催地
- 7) J-STAGE 関連状況

J-STAGE 搭載済みのDiatom 1巻~24巻までの公開頁は写真画質が不良であるため修正中であったが、完了の目処がたったと報告された。公開が承認された25巻以降の作業進捗状況、公開後の会員のコンテンツ利用方法について報告があった。
- 8) 日本分類学会連合総会(平成25年1月12・13日国立科学博物館(上野))参加報告。

- 9) 学会HPの和文レイアウト変更報告。

【審議事項】

- 1) 会員名簿作成

5年毎の会員名簿作成の今年度実施、会員情報の調査方法、Diatom 29巻への名簿掲載および掲載内容について審議され承認された。掲載項目は会員情報調査時の本人によるチェック記入項目のみとする。
- 2) メーリングリストによる会員への連絡体制

学会情報および連絡事項を事務局から会員にメール配信することが承認された。配信内容は学会ニュース、論文募集、大会案内など会員利益につながる情報およびその他事務局が可否を判断したものに限り、配信先は希望者のみとする。従来どおりの紙媒体による情報提供と併用する。
- 3) 将来構想委員会アンケートの承認と実施

Diatom 28巻に掲載された将来構想委員会のプランに基づき、学会員の要望と学会の現状把握のための基礎情報収集のためのアンケート実施、アンケート調査項目案、調査方法が承認された。
- 4) 学会賞の創設について

将来構想委員会で提案された「論文賞」「奨励賞」「功労賞」の3つの学会賞を制定することが承認された。各賞の設立趣旨は、論文賞は学会の発展と学会活動の活性化を図るため、奨励賞は会員の学会参加と発表に対する意欲向上を促すため、功労賞は珪藻学の発展に対する功績に報いるためとされた。各賞の対象者、実施時期、選考方法の規定の詳細は持ち回り運営委員会で協議することとなった。
- 5) Diatomの編集

特集号編集の際などに編集者数を増員できるよう、会則第3章第9条の「編集委員5名」を「編集委員5名程度」とすることが提案され、総会に諮ることが承認された。Diatom掲載が受理された論文について、編集終了後学会誌の発行を待たずにウェブ上でPDFを公開するonline first化を行うことが承認された。
- 6) J-STAGE 搭載論文の利用

会員がJ-STAGE 搭載論文(直近2年分)を閲覧するために必要なパスワード(1年間有効)を、Diatom送付時に会員全員に配布することが承認された。
- 7) 海外向け学会誌販売の価格変更。

J-STAGE 搭載により、Diatomにonline購読の付加価値を与えられることができるようになった。海外誌の価格を参考に、現在の10,000円からOnline only 14,000円、Online+Print 15,000円に変更することが承認された。
- 8) J-STAGE 搭載論文(直近2年分)の非会員への販売

PDF1篇につき2,200円(クレジットカード払のみ)で販売することが承認された。
- 9) 学会ホームページのコンテンツ追加

珪藻研究の啓蒙ページ「珪藻トピック」を新設し、Diatomに雑報として掲載することが承認された。
- 10) 会費未納者退会扱い

以下の会員を退会扱いとすることが承認された。

一ノ瀬安正（一般）、綿貫知彦（一般）、神奈川県薬剤師試験センター（団体）。

- 11) 平成 24 年度決算案および平成 25 年度予算案を総会に諮ることが承認された。
- 12) 平成 25 年度・26 年度会計監査担当者を松村広美氏と齊藤めぐみ氏に依頼することが承認された。
- 13) 国際第四紀学会（INQUA）第 19 回大会の共催について

上記学会会長より平成 26 年 7～8 月に名古屋で開催される大会の共催の依頼があった。共催学会に名を連ねることについて承認された。

Ⅲ. 平成 25 年度総会

平成 25 年度総会が、第 34 回大会期間中の平成 25 年 5 月 18 日（土）17 時 30 分より、出井雅彦大会会長を議長として大会会場において開催された。出席会員数は 36 名であった。

【報告事項】

- 1) 会員状況（平成 25 年 5 月 4 日現在）
 - 普通会員 192 名（内訳：一般会員 161 名、学生会員 19 名、奨学会員 4 名、家族会員 2 名、海外会員 6 名）、名誉会員 2 名、団体会員 5、個人賛助会員 1 名、団体賛助会員 2、合計 202 名。
- 2) 会計状況
 - 平成 24 年の決算案は会計監査の阿部洋子氏、廣瀬孝太郎氏による監査の結果、適正であると認められたことが報告された。
- 3) 編集委員会関係状況
 - Diatom 28 巻（平成 24 年 12 月 31 日発行）の内容および、29 巻編集状況について平成 25 年 5 月 16 日現在で 6 編が投稿され、うち 2 編が受理されているとの報告があった。このうち特集記事については、すでに 3 本の総説が投稿され 1 本が受理、さらに 2 本投稿予定であるとの報告があった。一般論文の投稿状況を鑑み、締め切りを 7 月末まで延長することであった。
 - また、同日開催の編集委員会で承認された投稿規定の改訂について以下の報告があった。
 - ①メール添付での投稿および完成稿の電子ファイルでの提出を原則とした。
 - ②学会がウェブ上で論文 PDF を公開することの許諾について明記した。
 - ③超過ページ料金を 1 ページあたり 5,000 円に引き下げた。
 - ④学会誌の B5 判から A4 判へのサイズ変更に合わせて、図表サイズを変更した。
- 4) 大会及び研究集会開催予定
 - 第 33 回研究集会は、平成 25 年 11 月 15 日～17 日に琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底研究施設（沖縄県国頭郡本部町瀬底）にて須田彰一郎氏を研究集会会長として開催されること、平成 26 年度に実施される第 35 回大会・第 34 回研究集会候補地についても世話人の内諾を得ていることが報告された。

5) 学会 HP

前年度に全てのコンテンツが更新された学会 HP の和文レイアウトが変更されたこと、ブラウザソフトの種類により生じていた不具合が改善されたことが報告された。

6) J-STAGE 関連状況

すでに Diatom 1 巻～24 巻までのフルテキストの PDF が公開されている（平成 24 年 10 月 12 日より）。しかし、写真画質不良のため再スキャンを要請し、数カ月以内には差し替え完了予定である（8 月現在、再スキャン作業は完了したが、アップロード作業は来年度予算で行いたいとの連絡が J-STAGE からあった）。

1 巻～24 巻は科学技術振興機構（JST）の推進する Journal@rchive 事業による無償の電子ジャーナル化の対象であったが、同事業は平成 24 年度に JST が運営する J-STAGE に統合された。25 巻以降の掲載は事業対象ではないため、学会による業者委託作業となる。このための審査を J-STAGE に申請した結果、承認された。また、審査および登録委託費が必要となった。順次最新刊までの掲載作業を進める予定である。

直近 2 年の論文は J-STAGE の HP 上でパスワード入力することにより閲覧できる。共通パスワードを会員全員に配布する。パスワードは Diatom と同送され 1 年間有効である。

- 7) 今年度の会員名簿の作成と Diatom 29 巻への掲載、電子メールアドレスによる会員への連絡体制運営委員会での承認事項が報告された。
- 8) 会費未納者退会扱い
 - 個人会員 2 名、団体会員 1 の会員を退会扱いとすることが報告された。
- 9) 平成 25 年度・26 年度会計監査担当者 2 名が運営委員会で承認されたことが報告された。
- 10) 日本分類学会連合総会参加報告

日本分類学会連合第 12 回総会と公開シンポジウム「自然史標本の公的保護をめざして」「分類学があらためて「種」と向き合うとき」が、平成 25 年 1 月 12・13 日に上野の国立科学博物館で開催され、鈴木秀和氏が出席した。

【審議事項】

- 1) 将来構想検討委員会のアンケートの実施
 - 2 年前より将来構想検討委員会が活動を開始し、Diatom 28 巻に活動経過報告が掲載された。その中に、会員数の減少を防いで会の活性化を図るため、会員の現状や要望についての基礎情報収集のためのアンケート実施の必要性とアンケート調査項目案が提案された。
 - アンケート実施方法は、今年度の名簿調査時にアンケート用紙を同封し、名簿調査用紙とともに無記名密封回収する。データの集計は部外者に委託し、集計後アンケート用紙は速やかに裁断する。得られた情報は学会の将来構想のみに利用し他の目的利用はしない。
 - 上記説明後、アンケートの実施の可否の採決を

とったところ、賛成多数で承認された。

2) 学会賞の創設について

将来構想委員会で提案された「論文賞」「奨励賞」「功労賞」の3つの学会賞を制定することが承認された。各賞の対象者、実施時期、選考方法、付帯条件等の規定の詳細は持ち回り運営委員会で協議することとなった。

3) 海外向け学会誌販売の価格変更。

運営委員会の承認内容が承認された。

4) J-STAGE 掲載論文(直近2年分)の非会員への販売
運営委員会の承認内容が承認された。

5) 平成24年度決算

会計監査を受けた以下の決算が承認された。

平成24年度決算(平成24年1月1日~12月31日)

(収入)		(支出)	
前年度繰越金	3,217,152	印刷費(28巻)	372,221
会費	1,034,800	発送費	98,661
会誌売上代金	90,500	編集費	10,010
別刷代(27巻)	59,460	庶務雑費	41,884
超過頁代(27巻)	255,000	日本分類学会連合分担金	10,000
受取利息	687	デジタルアーカイブ作成費	327,820
雑収入	840	J-Stage登録委託費(25,26巻)	0
		次年度繰越金	3,797,843
合計	4,658,439	合計	4,658,439

6) 平成25年度予算

以下の予算案が提案され、予算が承認された。

平成25年度予算(平成25年1月1日~12月31日)

(収入)		(支出)	
前年度繰越金	3,797,843	印刷費(29巻)	800,000
会費	1,000,000	発送費	100,000
会誌売上代金	100,000	編集費	30,000
別刷代(28巻)	16,600	庶務雑費	60,000
超過頁代(28巻)	30,000	日本分類学会連合分担金	10,000
受取利息	1,000	デジタルアーカイブ作成費	46,100
雑収入	3,000	J-Stage登録委託費(25,26巻)	60,000
		次年度繰越金	3,842,343
合計	4,948,443	合計	4,948,443

7) 国際第四紀学会(INQUA)第19回大会の共催について承認された。

8) 会則の変更

特集号編集の際など必要に応じて編集者数を増員できるよう、会則第3章第9条の「編集委員5名」を「編集委員5名程度」とする議案について、出席会員の2/3以上の賛成により承認された。

IV. 持ち回り運営委員会

・平成25年10月21日 議題：特集「珪藻と古環境」を独立した特集号とすることについて

大塚編集委員長より特集を29巻ではなく平成26年3月以降に独立した特集号(30巻1号)として出版したいという編集委員会の意向が示された。

理由は、①9月10日現在、Diatom 29巻には14本の

論文が投稿されており、そのうち8本が古環境特集に関連したものである。②29巻には会員名簿を掲載するため、200頁を超える可能性がある。③特集号の記事には総説が多く、査読および修正を急ぐことでチェックや修正が甘くなる恐れがあり、編集者の負担が大きくなる。

その他の要因として、①費用は10万円前後余計にかかるが、印刷会社の変更による印刷単価の低下と過去2年間のDiatomの頁数が少なかったため、出版費にはかなりの黒字が出ているので経費面では大きな問題はないと思われる。②著者全員からは了承を得ており、編集委員会でも承認されている。③Diatomの裏表紙にも“Diatom”を年1回または2回刊行と明記されている、ということであった。

運営委員会として、特集「珪藻と古環境」を独立した特集号として発行するかについて、およびその発行時期及び巻数の扱いをどうするかについて審議を行い、結論として、特集号を30巻の別冊として平成26年の総会後に出版し、通常の30巻を平成26年12月に出版することとなった。

・平成25年11月6日 議題：本年度学会賞の選考について

本年5月の大会時に制定が可決された学会賞のうち、奨励賞の選考を第33回研究集会において実施するかどうかについて審議されたが、選考規程の詳細が未定のこともあり本年度の学会賞の選考は行わないこととなった。

V. 日本珪藻学会第33回研究集会

日本珪藻学会第33回研究集会が、平成25年11月15日(金)から17日(日)に、琉球大学熱帯生物圏センター瀨底研究施設(沖縄県国頭郡本部町瀨底3422番地)で須田彰一郎氏を集会会長として開催された。会場が遠隔地の沖縄であるため変則的に3日間の集会となった。集会参加者は54名で米国、韓国、インドネシアからの参加者もあった。講演はミニシンポジウム5題、一般講演は全てポスター発表で25題の合計30題であった。

第1日目は、写真撮影後、「国際ミニシンポジウム：東アジアの珪藻」と題して英語による講演と質疑応答が行われた。

第2日目は午前8時半からポスター発表が行われた。前後半に分け、それぞれ3分間の発表者による内容説明の後、前後半約30分ずつの討論時間が設けられ、活発な意見が交換された。次いで備瀬崎海岸に移動しての採集会、研究施設に戻っての試料観察会、オプションツアーの美ら海水族館見学にもほとんどが参加した。夜は施設の庭と食堂でバーベキュー懇親会を行ない、泡盛も手伝って遅くまで盛り上がった。

第3日目は真山学会会長から来年開催予定の国際珪藻学会の情報などが紹介された後、全員が今回の集会の感想を述べ、帰途についた。

天候にもほぼ恵まれ、車での移動や採集時の事故、ハブにも出会うことなく、参加者の多い密度の濃い有意義な集会となった。集会の準備・運営に協力いただいた琉球大学の石本さん、田村さんを始め学生諸氏に感謝致します。

VI. 平成 25 年度編集委員会

平成 25 年度日本珪藻学会編集委員会が、平成 25 年 5 月 18 日(土) 10 時 15 分より文教大学越谷キャンパス 12 号館 12203 会議室において開催された。出席者は、真山茂樹(会長)、大塚泰介(編集委員長)、後藤敏一、須藤斎、辻 彰洋(編集委員)の 5 名。

【報告事項】

- 1) Diatom 第 28 巻
全 62 頁で、過去 2 番目の薄さ。
- 2) 第 29 巻編集状況
- 3) Diatom 掲載論文のウェブ上での公開について
Diatom 1~24 巻の PDF が、2012 年 12 月 11 日に J-STAGE より公開された。また、Diatom 28 巻の全論文の英文要旨、および 26 巻の全論文の全文 PDF が、学会ウェブページに掲載された(豊田健介 HP 委員による)。
- 4) 投稿規定の改訂について
投稿規定を改定した。修正点については III. 平成 25 年度総会の報告事項 3) の通り。
- 5) 29 巻特集について
 - ①総説(依頼原稿、5 編)は、平均で刷り上がり 15 頁程度になる。
 - ②この時点で通常論文の投稿はなかった。そこで、投稿期限を一般の論文と同じ 2013 年 7 月末まで延期した。

【審議事項】

- 1) 30 巻の特集について
本大会のミニシンポジウム「珪藻の細胞を見る」と関連した内容で特集を組む方針とした。しかし 30 巻に間に合わせるとすれば準備期間がやや不足するので、31 巻の特集とすることも視野に入れて打診をすることとした。この議論を受けて大会中に「珪藻の細胞を見る」発表者の皆さんと調整をした結果、ミニシンポジウム「珪藻の細胞を見る」を基にした特集を、31 巻で組むことになった。
- 2) その他検討事項
Diatom を Online First で出版する方策について検討した。

【持ち回り編集委員会】

- 1) Diatom 掲載論文の早期公開の方法について(2013 年 6 月 5 日~)
Diatom 掲載論文の早期公開の方法について、①レイアウト済、巻・号・ページ番号確定済みの完成版を公開する、②提出原稿をそのまま公開する、の 2 つの方法を比較検討した。その結果、①の方法をとることになった。
- 2) 古環境特集の別冊化について(2013 年 8 月 30 日~)
29 巻で予定していた古環境特集を、30 巻の別冊として独立させることの是非を検討した。その結果、編集委員会の意向としては別冊化で一致し、引き続いて運営委員会に諮られることになった。

VII. 会員異動

〈新入会員〉佐藤善輝、阿部慎人、江幡貴雄、堺 眞砂美、田村 裕、John Jaime Perez Coca、松田祐介、平山知歌子、福本朱美、Batni Alakananda
 〈退会〉森田光治、片倉紀夫、岸本千江子、斎藤岳由、田辺 純、保坂昭雄、松浦玲子、水野高志、水野 真、永野真理子、佐古恵美、高橋かつ江、伊藤 守
 〈退会：会費未納〉一ノ瀬安正、綿貫知彦、神奈川県薬剤師会試験センター
 ・小村精一会員が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。
 〈住所変更等：省略〉

VIII. 第 23 回国際珪藻シンポジウム発表助成募集

平成 26 年 9 月 7 日~9 月 12 日に中国の南京で第 23 回国際珪藻シンポジウムが開催されます。本シンポジウムで発表を行う若手研究者を対象に、国際珪藻シンポジウム東京大会記念基金に基づく助成の申し込みを募集します。

募集対象者：30 歳以下の発表者(共同発表者は対象外です)

助成金：発表者 1 名につき 50,000 円

申し込み：氏名、所属機関、連絡先(住所、電話番号、e-mail アドレス)を明記して、第 23 回国際珪藻シンポジウム発表講演要旨と、助成を必要とする理由書を下記宛お送り下さい。国際珪藻シンポジウム東京大会記念基金規約(Diatom 第 16 巻 10 頁に掲載)により助成の可否を申請し、審査結果を本人に連絡します。

報告書の提出：発表に関する報告書を、シンポジウム終了後 1 ヶ月以内に提出していただきます。

応募〆切：平成 26 年 8 月 1 日(金)

申込先：〒184-0003 東京都小金井市緑町 5-19-17-607 日本珪藻学会

なお、第 23 回国際珪藻シンポジウムの早期参加申込〆切は 2014 年 6 月 1 日、最終参加申込〆切と要旨の提出は 8 月 1 日となっています。第 23 回シンポジウムのホームページは以下の通りです。

<http://www.ids2014.com/>

IX. 平成 26 年度大会および研究集会開催予定

日本珪藻学会第 35 回大会

開催予定日：平成 26 年 4 月 26・27 日

場所：名古屋大学(愛知県名古屋市)

世話人：須藤 斎(名古屋大学環境学研究科地球環境科学専攻生物圏進化学講座)

日本珪藻学会第 34 回研究集会

開催予定日：平成 26 年 11 月 8・9 日

場所：滋賀県立琵琶湖博物館(滋賀県草津市)

世話人：大塚泰介(滋賀県立琵琶湖博物館)